

オリンパスの事業と成長戦略

オリンパス株式会社（証券コード：7733）
広報・IR部 部長 櫻井隆明

1. 会社概要

2. 事業概要

(1) 医療事業

(2) 科学事業

(3) 映像事業

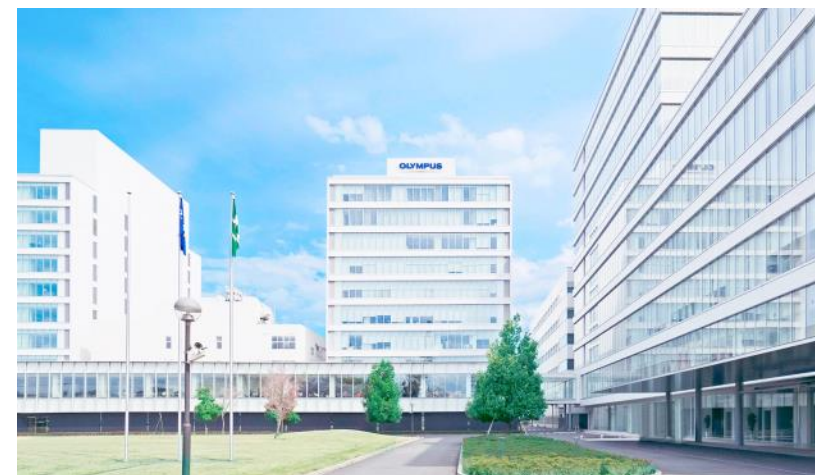
3. 成長戦略（中期経営計画）

4. 株主還元

1. 会社概要

会社概要

- 商号 : オリンパス株式会社
- 設立 : 1919年
- 連結売上高 : 7,840億円 (2018年3月期見通し)
- 株式上場 : 東京証券取引所 市場第一部
(証券コード : 7733)
- 連結従業員数 : 35,893人 (2017年9月末)
- 連結子会社数 : 101社 (2017年9月末)



石川事業場 (東京都八王子市)

- 世界の人々の健康・安心と心の豊かさの実現を通して社会に貢献する



オリンパスの歴史

16CSP

Sony Olympus Medical Solutions

2016年 新中期経営計画「16CSP*」を発表

2012年 ソニーと資本・業務提携

2008年 低侵襲事業拡大のためジャイラス社買収

2003年 「オリンパス株式会社」に社名変更

1996年 デジタルカメラ事業に参入

1989年 中国に駐在員事務所開設

1975年 医療用硬性内視鏡に参入（外科分野）

1968年 米国に現地法人設立

1964年 欧州に現地法人設立

1950年 世界で初めて胃カメラを実用化

1949年 「オリンパス光学工業株式会社」に社名変更

1936年 カメラ事業に参入

1920年 商標を「オリンパス」と登録、顕微鏡「旭号」発売

1919年 株式会社高千穂製作所として創立



オリンパスを構成する事業セグメント

医療事業



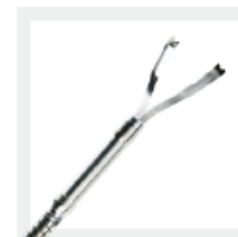
消化器科・呼吸器科



上部消化管汎用ビデオスコープ（消化器内視鏡）



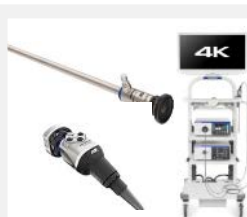
気管支ビデオスコープ（呼吸器内視鏡）



ディスプレイザブル回転クリップ装置「QuickClip Pro」

2018年3月期売上高見通し

外科



4K外科手術用内視鏡システム



バイポーラ高周波・超音波統合エネルギーデバイス「THUNDERBEAT」



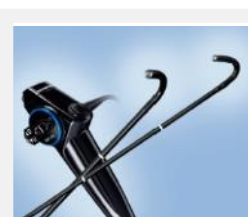
軟性尿管内視鏡

泌尿器科・婦人科



前立腺肥大症・膀胱腫瘍治療用レゼクトスコープ・電極

耳鼻咽喉科



軟性咽頭内視鏡



マルチデブリッター「DIEGO ELITE」

科学事業



生物顕微鏡



多光子励起レーザー走査型顕微鏡「FLUOWVIEW」

産業用機器

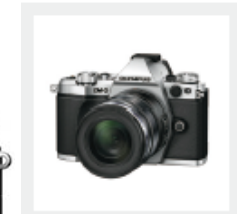


工業用内視鏡「IPLEX」シリーズ

映像事業



ミラーレス一眼

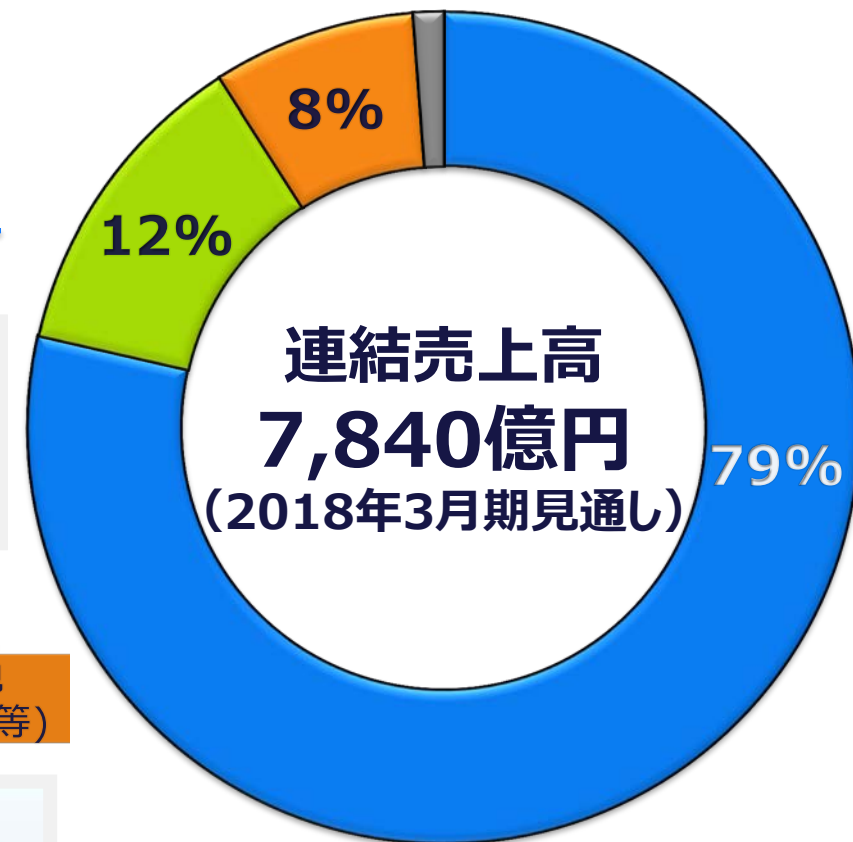


ミラーレス一眼「OLYMPUS OM-D E-M5 Mark II」

その他（録音機等）



リニアPCMレコーダー「LS-14」



2. 事業概況

(1) 医療事業

2. 事業概要 (1) 医療事業

- オリンパス医療事業が提供する2つの価値

医療事業を取り巻く環境

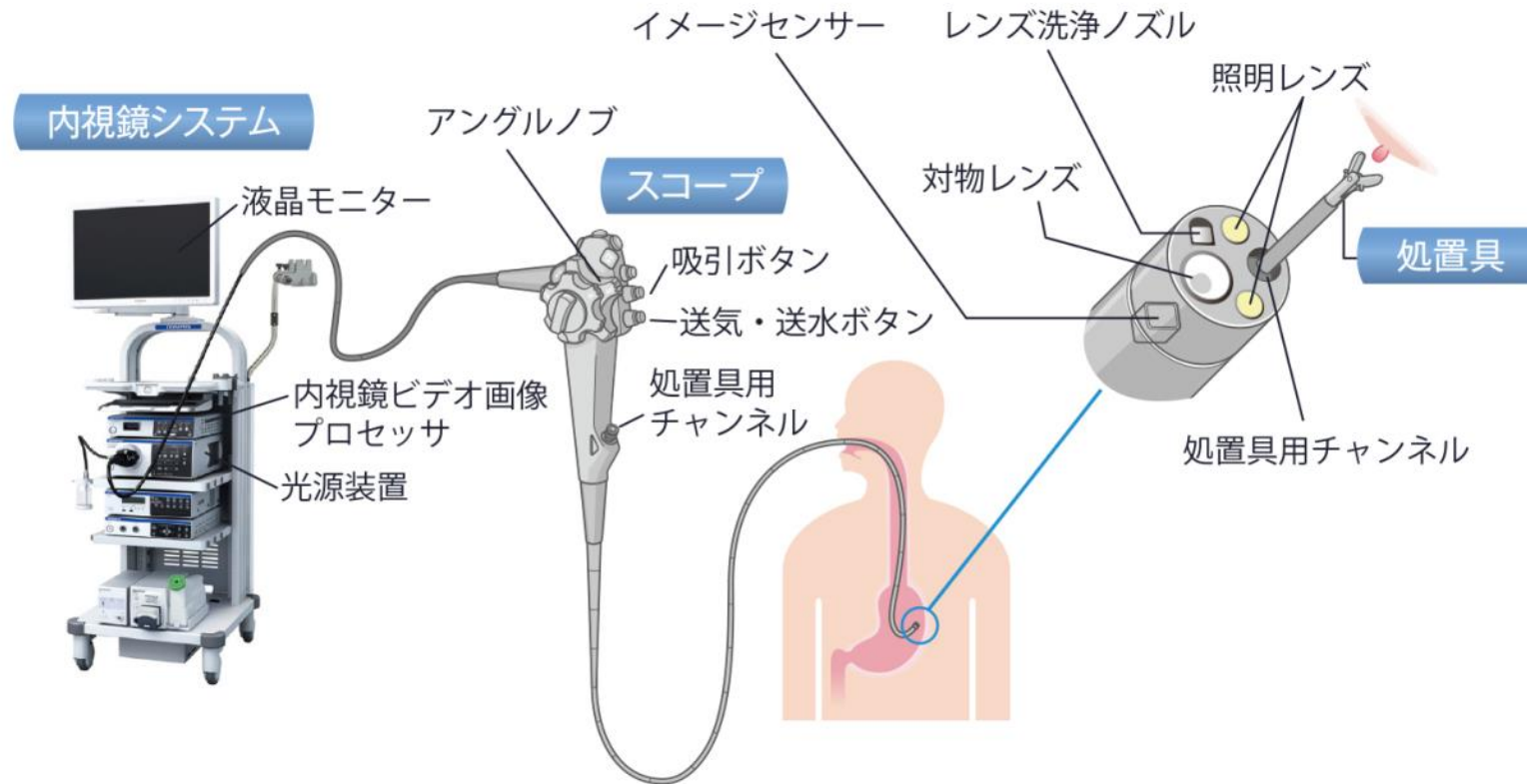
- 高齢化の進展
 - 患者さんのQOL (Quality of Life) の向上
 - 医療コスト削減の圧力
- 

早期診断
(Early Diagnosis)

低侵襲治療
(Minimally Invasive Therapy)

消化器内視鏡領域

- 「早期診断」・・・病気を早期に発見し、診断を確定させる
- 「内視鏡」・・・食道や胃や腸など、人体内部を観察する事を目的とした医療機器



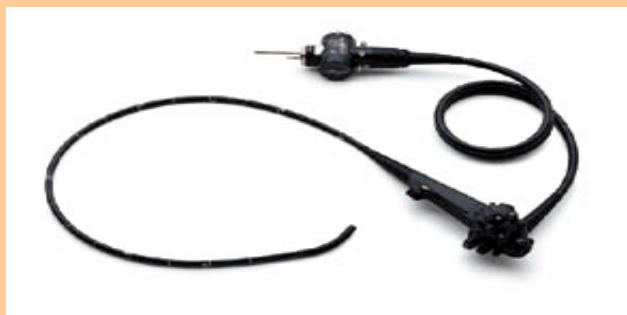
処置具

- 診るだけではなく、処置機能も備える



処置具用チャンネルから処置具が出ている様子

消化器内視鏡が使われる主な部位



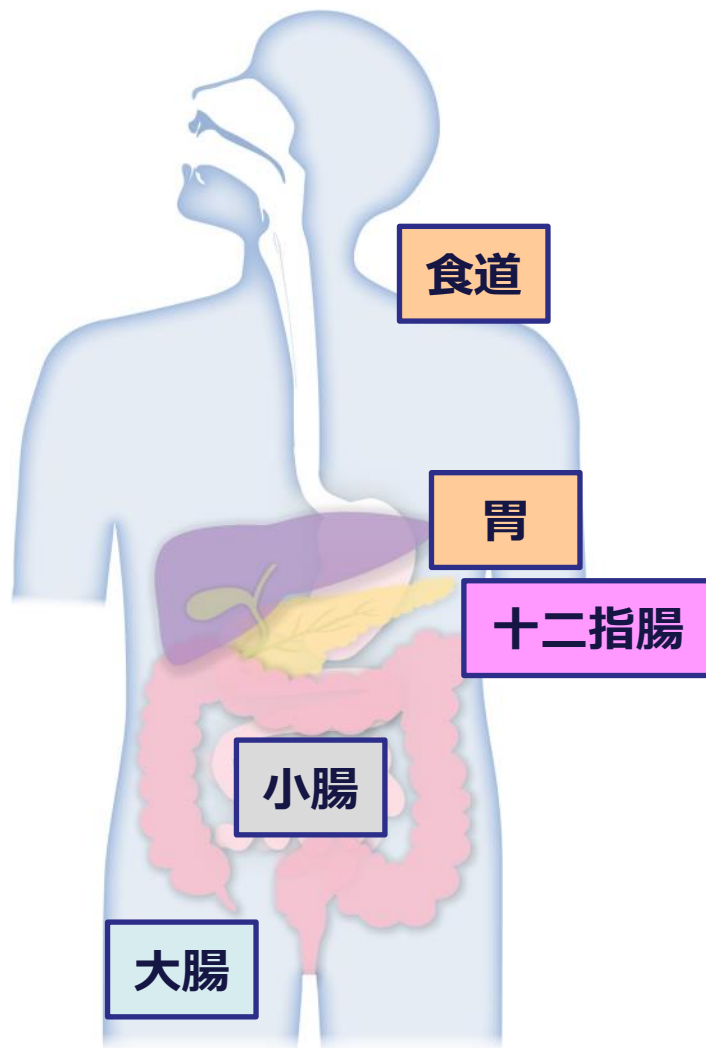
上部消化管内視鏡



十二指腸スコープ



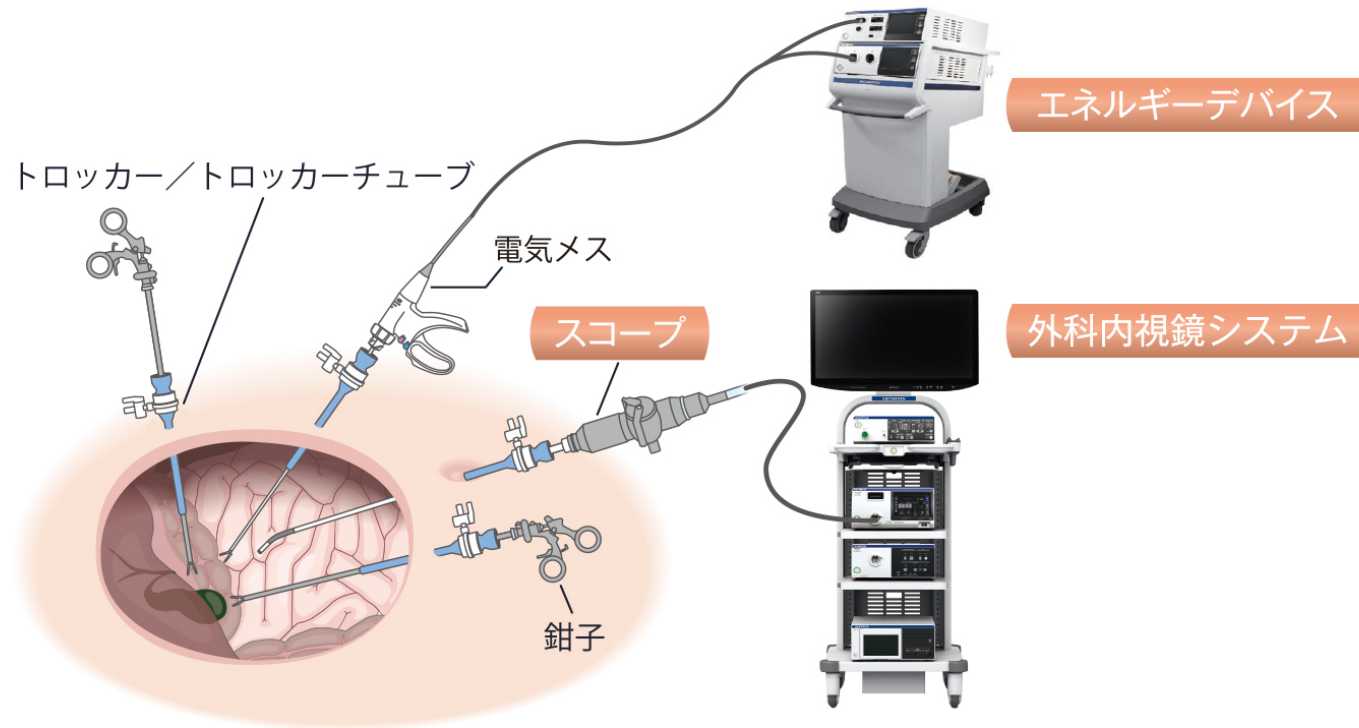
大腸内視鏡



小腸内視鏡

外科領域

- 「低侵襲治療」・・・手術・処置に伴う痛みなどの負担を出来るだけ少なくする
- 「腹腔鏡手術」・・・腹部などに小さな穴を開けて、硬性鏡で体内を見ながら施術する



一般の開腹する外科手術と比較して

- 手術の傷が小さい
- 術後の疼痛が少ない
- 入院期間が短い
- 社会復帰が早い

⇒ 身体的負担のみならず、
経済的な負担の軽減にも
繋がると言われている

主要製品と世界シェア

消化器科・呼吸器科



(処置具)

消化器内視鏡：
世界シェア70%以上
(No.1)

処置具：
世界シェア約20%

外科



(エネルギーデバイス)

外科内視鏡：
世界シェア20～25%

エネルギーデバイス：
世界シェア18～20%

泌尿器科・婦人科



泌尿器科：
世界シェア約30%

婦人科：
世界シェア約10%

耳鼻咽喉科



咽喉科：世界シェア50～60%
鼻科：世界シェア10～15%
耳科：世界シェア40～50%

① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

- 半世紀以上に渡る医師との協働開発体制
- 最先端のテクノロジーを活かした製品開発

② 強固な事業基盤

- 約200拠点に広がる業界トップのサービス体制
- 内視鏡医の育成を支援するトレーニングセンター
- 医師のニーズを具現化する独自のものづくり力

① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

1950年

胃カメラ開発



杉浦睦夫

1964年

ファイバースコープ



臨床試験に臨む宇治医師

1985年

ビデオ内視鏡システム



2002年

ハイビジョン内視鏡システム



2012年

- EVIS LUCERA ELITE
- EVIS EXERA III



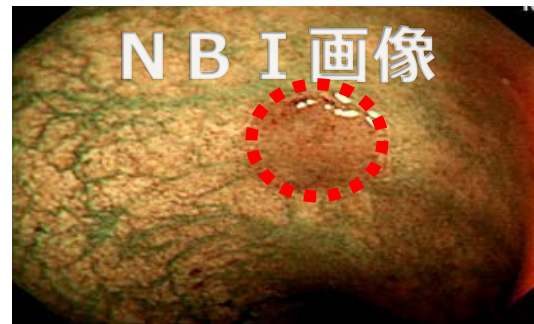
● 医師のニーズにあった製品開発力、最先端の技術力

- 1950 年に世界初の実用的な胃カメラを開発してから現在に至るまで、
医師との二人三脚で内視鏡技術の改良に取り組む

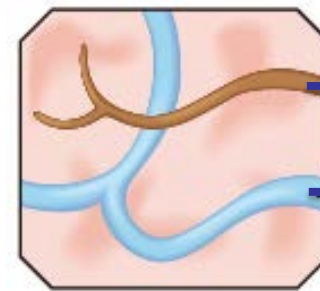
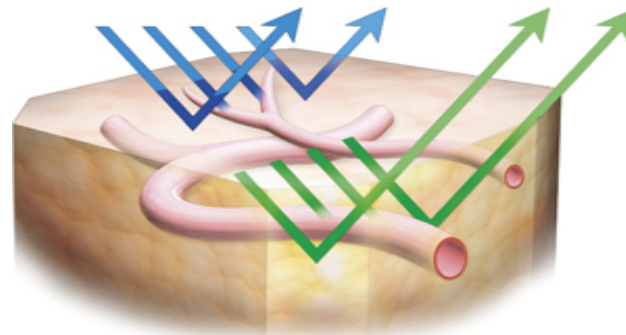
① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

最先端のテクノロジーを活かした製品開発（消化器内視鏡領域）

● N B I（Narrow Band Imaging）による毛細血管画像の強調表示



- がんなどの微細病変の早期発見に寄与
- 狭帯域光を用いることでコントラストが強調される
- 粘膜表層の微細構造や毛細血管をより見やすくする



茶色：粘膜表層の毛細血管

青色：粘膜下組織内部の
太い血管

写真提供：国立がんセンター東病院（薫風会 佐野病院） 佐野先生

① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

最先端のテクノロジーを活かした製品開発（外科領域）

● IR（赤外光）・3D観察に対応した外科手術用内視鏡システム

- IR・3Dから2D・NBIまで、多様な観察方法に対応可能
- 世界初の先端湾曲機能を搭載した外科手術用3Dビデオスコープ



ENDO EYE 3D 硬性ビデオスコープ



ENDO EYE FLEX 3D 先端湾曲ビデオスコープ



「VISERA ELITE II」

● 世界初のバイポーラ高周波と超音波の統合エネルギーデバイス

- 従来製品の約2倍のスピードで切除操作可能
- 7mmレベルの血管のシーリング（封止）をサポート



THUNDERBEAT



SONICBEAT



THUNDERBEAT
Open Extended Jaw



THUNDERBEAT
Open Fine Jaw

① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

最先端のテクノロジーを活かした製品開発（外科領域）

● ソニーとの合併会社で両社の強みを結集

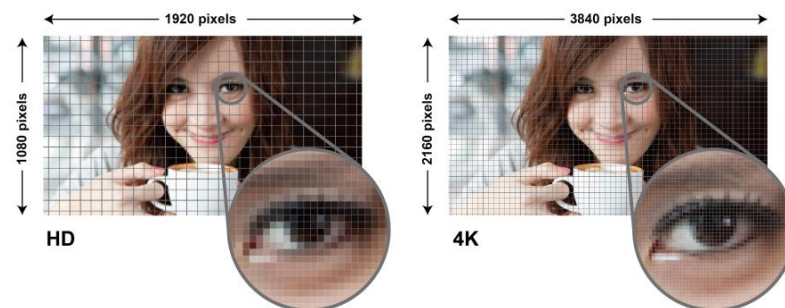


4K技術搭載の外科手術用内視鏡システム

- 高精細画像で手術時の視認性向上に貢献
- 豊富な色再現性により、微細組織の容易な識別をサポート



4K外科手術用内視鏡システム



フルハイビジョン映像と4K映像の比較

4K 3Dビデオ技術搭載の手術用顕微鏡システム

- 高精細画像で緻密な手術をサポート
- 大型55型モニターによる観察を実現し、術者の疲労軽減とチームサージャリーに貢献



手術用顕微鏡 ORBEYE



ORBEYEを用いた手術風景

② 強固な事業基盤

● グローバルで約200拠点に広がる業界トップのサービス体制

世界最大の内視鏡修理センター（米国）



② 強固な事業基盤

● 内視鏡医の育成を支援するトレーニングセンター

- 新興国での事業拡大を目指し、トレーニングセンターを順次開設

【アジア・オセアニア売上成長グラフ】

(百万円)

120,000

100,000

80,000

60,000

40,000

20,000

0

2010年 北京



2013年 広州



2008年 上海



2016年 タイ



2017年 韓国



② 強固な事業基盤

● 超多品種極少生産を実現するものづくり力

- 既製品に存在しない設備、加工部品などを内製化
- 数ミクロンレベルの超精密部品を具現化する微細加工技術
- さまざまな技術とノウハウを細かく組み合わせて調整する日本特有の「すり合わせ技術」
- 開発からアフターケアまで一環した製造体制を構築（医療現場のフィードバックを適宜生産に反映）

医療事業主力製造拠点 東北3工場



2. 事業概況

(2) 科学事業

2. 事業概要 (2) 科学事業

「世界に認められる顕微鏡をつくる」
「顕微鏡の国産化により、
医学の発展に貢献したい」

1920年

「旭号」
オリンパス初の顕微鏡



生物顕微鏡

レーザー顕微鏡



蛍光顕微鏡



産業用機器

工業用顕微鏡



工業用内視鏡



非破壊検査機器

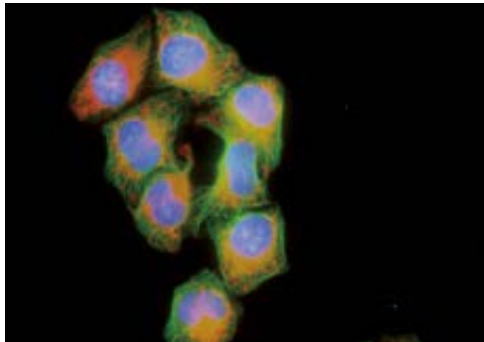


X線分析装置



生物顕微鏡

- 次世代医療を切り開く最先端研究を支援
脳神経、がん研究・病理診断、再生医療（iPS細胞など）
- 先進の研究領域から、臨床、教育まで幅広く貢献

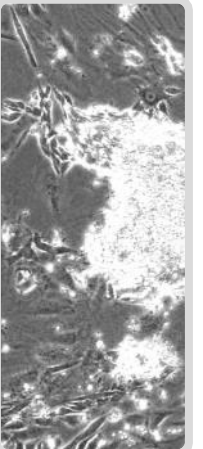
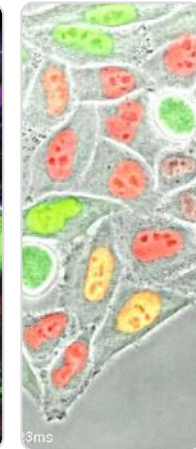
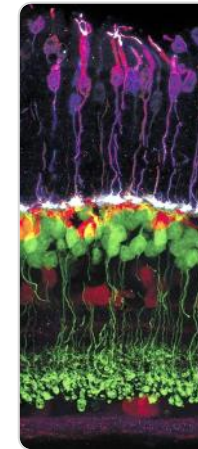


ライブセルイメージング



生物顕微鏡

脳神経科学 がん診断 がん病理診断 再生医療



(iPS細胞等)

産業用機器

- 産業製品の生産性向上に貢献
半導体、電子部品、自動車部品の検査
- 安全安心に暮らせる社会づくりに貢献
航空機エンジン、プラント配管等の非破壊検査
物質特性の定性的・定量的解析



半導体検査



航空機エンジン検査



プラント配管検査



部品の成分元素検証

2. 事業概況

(3) 映像事業

2. 事業概要 (3) 映像事業

ミラーレス一眼



OM-D E-M1 MARK II



E-PL9



交換レンズ



超望遠域での手持ち撮影（三脚不使用）を実現

コンパクトカメラ

TG-5



TG-Tracker

ICレコーダー



LS-P4



DM-750



VP-15

● 収益性の高いミラーレス一眼に集中

2009年	ミラーレスカメラ発売により新規市場を開拓	
2010年	女性層、アマチュア層向けにラインナップを強化	
2012年	ミラーレスカメラ高級シリーズ	OM-D E-M5 発売
2013年	ミラーレスカメラ最上位機種	OM-D E-M1 発売
2013年	ミラーレスカメラ戦略モデル	OM-D E-M10 発売
2015年	ミラーレスカメラ高級シリーズ の後継機 OM-D E-M5 Mark II 発売	
2016年	ミラーレスカメラ最上位機種 の後継機 OM-D E-M1 Mark II 発売	



PEN E-P1



PEN E-PL1



OM-D E-M5



OM-D E-M1



OM-D E-M10



OM-D E-M5 Mark II



OM-D E-M1 Mark II

- ミラーレス一眼において国内シェア3年連続第1位

- 「BCN AWARD 2018」において、ミラーレス一眼の年間販売台数第1位を獲得

- 「カメラグランプリ2017」において、「大賞」「レンズ賞」「あなたが選ぶベストカメラ賞」の3冠を達成

「大賞」の選考理由：

（OM-D E-M1 Mark IIは、）大幅な進化を遂げこれまでのミラーレス機の概念を超え、今後の方向性を示したといえるフラッグシップモデル



「OM-D E-M1 MARK II」 +
「M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100MM F4.0 IS PRO」

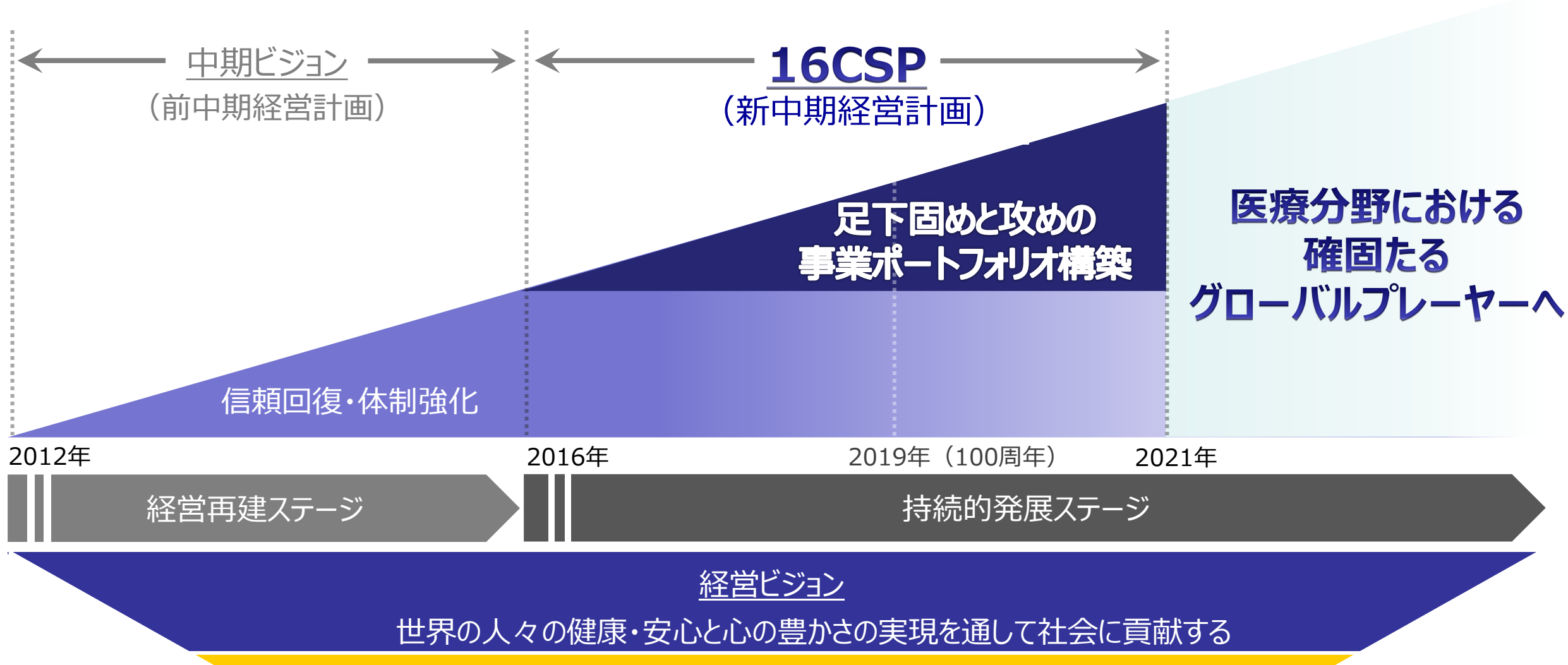


カメラグランプリ2017

3. 成長戦略 (中期経営計画)

2016 経営基本計画「16CSP」の位置付け

- 創立100周年（2019年）の節目を越えて、持続的な発展を実現するための、足下固めと攻めの事業ポートフォリオの構築



経営目標

- 適切な健全性を確保した上で、事業収益性・事業成長性をバランス良く向上させることにより、ROE 15%（資本効率性）をコンスタントに実現し、5年間で収益（EPS）倍増

資本効率性

ROE

15%

（2017年3月期実績：11.3%）

- 適切な健全性を確保した上で、事業収益性・事業成長性をバランス良く向上させ、ROE 15%を長期的に維持

事業収益性

営業利益率

15%

（2017年3月期実績：9.6%）

- 外科系3事業（GS、UG、ENT）の収益改善、科学事業の選択と集中、映像事業の確実な黒字確保により収益性を向上
- 製造原価低減に加え、開発効率の改善、間接業務の効率化等により販管費を削減し、収益性向上を図る

事業成長性

EBITDA

2桁成長*

（2017年3月期実績：1,240億円）
（2021年3月期目標水準：2,400億円）

- 医療事業において市場成長率を上回る売上拡大を実現するとともに無駄の無い事業運営に努め、質を伴った成長を実現する
- 会計的要素（減価・のれん償却等）を除いた「儲ける力」の強化を図る

健全性

自己資本比率

50%

（2017年3月期実績：41.1%）

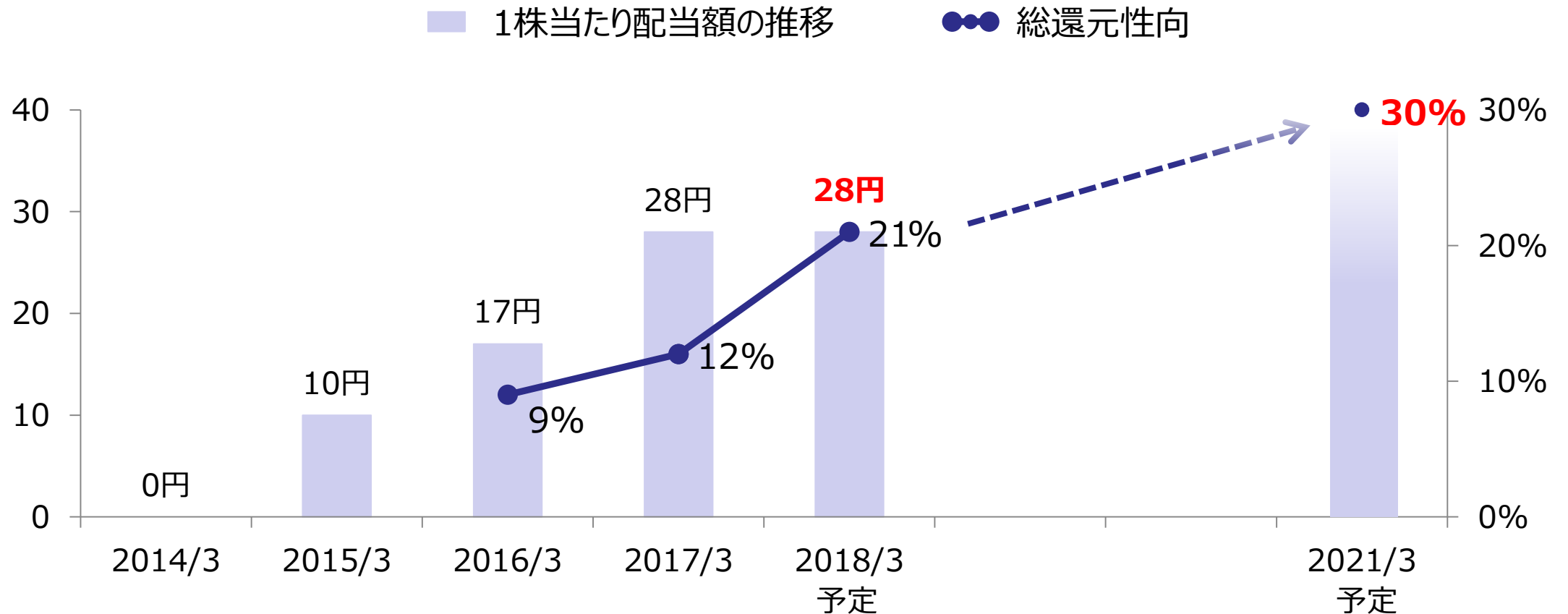
- リスクに見合った適切な健全性の確保と適正な財務レバレッジコントロールの観点から、自己資本の充実を図る

4. 株主還元

4. 株主還元

資本配分の基本方針

1. 安定した財務基盤確保のため、資本を増強
2. 医療事業を中心とした成長領域へ積極投資
3. 将来的に総還元性向30%を目安とし、段階的に増配





- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

【参考資料】 ホームページお役立ち情報

● 投資家情報ページ

<https://www.olympus.co.jp/ir/>

- 直近の決算情報やアニュアルレポートなど、投資家の皆さま向けの情報をご紹介します



QRコード

● 中期経営計画

<https://www.olympus.co.jp/ir/data/managementplan.html>

- 2016年3月公表の中期経営計画「16CSP」の内容を詳しく説明しています



QRコード

● 個人投資家の皆さまへ

<https://www.olympus.co.jp/ir/individual/>

- 個人投資家の皆さま向けに当社事業内容や強み、歴史等について分かりやすくご紹介しています



QRコード

● オリンパスニュースメール登録

<https://www.olympus.co.jp/ir/mail.html>

- 当社ニュースリリースや適時開示情報を配信しています。ご希望の方は是非ご登録ください



QRコード